

地域貢献事業発表会 2022

[日 時] 2022 (令和4) 年 11月 18日 (金) 12:00~15:00
[会 場] 広島市役所本庁舎 2階 講堂

1 講演 (13:00~13:20)

広島市立大学の地域・社会貢献－取り組みと今後の展望－
公立大学法人広島市立大学 理事長・学長 若林 真一

2 事例発表 (13:20~14:00)

(1) 芸備線魅力発信・フォトジェニックオブジェ制作

芸術学部 講師 藤江 竜太郎

芸備線地域の活性化及びJR芸備線の利用促進につながるプロジェクトとして、志和口駅周辺地域と協働し、フォトジェニックオブジェ作品を制作しました。

※この研究は、芸備線対策協議会（所管：道路交通局都市交通部）からの受託研究として実施しました。

(2) コロナ禍でも健康体操で交流したい。

情報科学研究科 准教授 岩根 典之

比治山学区社会福祉協議会と連携しながら、スマートフォンを活用して、コロナ禍でも、健康維持のための活動（百歳体操、交流など）を止めることなく持続できるような環境の在り方を模索しました。

※この取組は、本学「いちだい地域共創プロジェクト」により実施しました。

◇パネル展示◇ (12:00~15:00)

いちだい地域共創プロジェクト、市民向け公開講座、受託研究「新型コロナウイルス感染症ポータルサイト構築」「大型ごみ受入体制の改善」「広島市基本構想・第6次広島市基本計画の表紙デザイン及び本文レイアウト等の制作」「基町プロジェクト」、その他地域等と連携した教育研究 etc.



① 広島市等との連携事業紹介

No.	関連部局	事業名	概要	研究者 (事業実施当時在籍者を含む)
市 01	企画総務局 健康福祉局	新型コロナウイルス感染症ポータルサイトの構築	ネットワーク科学研究室では、本研究室の学生も携わり、「広島市新型コロナウイルス感染症ポータルサイト」の構築に取り組みました。日々更新される広島市の新型コロナウイルス感染症に関するオープンデータを、グラフなどにより可視化することで、簡単にわかりやすく最新の感染動向に関する情報を閲覧することができます。	情報科学研究科情報工学専攻 ネットワーク科学研究室 教授 前田 香織 教授 高野 知佐
市 02	企画総務局	広島市基本構想・第6次広島市基本計画の表紙デザイン及び本文レイアウト等の制作	広島市基本構想・第6次広島市基本計画について、市民や企業等の皆様の理解を深め、市民主体のまちづくりを推進するための広報媒体となるように表紙デザイン等を制作しました。	芸術学部デザイン工芸学科 教授 納島 正弘 協力研究員 大道寺 ダニカ
市 03		広島広域都市圏PRキャラクター「広島広域都市犬“はっしー”」のデザイン調整	広島広域都市圏協議会からの依頼を受け、過去に同協議会の研修生が考案した「広域都市犬“はっしー”」のデザイン調整とそのデザインを基に様々なポーズを制作しました。	芸術学部デザイン工芸学科 教授 納島 正弘 准教授 中村 圭
市 04		広島広域都市圏鳥瞰図の作成	広島広域都市圏の広報や構想実現に向けた施策展開のための検討資料等として、広島広域都市圏全体を俯瞰する鳥瞰図を制作しました。	芸術学部 デザイン工芸学科 教授 笠原 浩
市 05		比治山公園「平和の丘」第Ⅱ期整備におけるサイン計画	広島市では比治山公園「平和の丘」基本計画に基づき、比治山公園の再整備を行っています。その取り組みの一つとして、公園内の案内サインについて、来園者に分かりやすく統一感のある案内サインとなるよう、2022（令和4）年度の現代美術館のリニューアルに合わせて順次改修を行います。	芸術学部デザイン工芸学科 准教授 中村 圭
市 06	市民局・教育委員会	市民の英語力向上のための研究と実践	国際学部の教員が開発した「ネットワーク型集中英語学習プログラム」を広く開放し、市民の英語力向上に貢献しています。同プログラムを利用して自宅等で英語学習が行える「市大英語eラーニング講座」の実施概要を紹介します。	国際学部 教授 青木 信之 教授 渡辺 智恵
市 07	市民局	「中国国際スマート産業博覧会2020」への出展	広島市の友好都市である中国・重慶市がオンラインで「中国国際スマート産業博覧会2020」を開催し、情報科学研究科が研究概要のポスターをオンライン展示しました。	情報科学研究科情報工学専攻 モニタリングネットワーク研究室 教授 西 正博 講師 新 浩一 助教 小林 真 情報科学研究科システム工学専攻 知的制御システム研究室 准教授 脇田 航 情報科学研究科システム工学専攻 メカトロニクス研究室 教授 李 仕剛

No.	関連部局	事業名	概要	研究者 (事業実施当時在籍者を含む)
市 08	環境局	大型ごみ受入体制の改善	大型ごみ搬入に関する利便性向上のため、安佐南工場では休日開場を行うことになりました。その試行と有効性の検証のために、搬入の抽選・予約システムを開発しました。多くの市民の皆様から賛同頂き、2022年夏からの本格的な休日開場につなげることができました。このほか、授業の1つ「地域課題演習」を通じて、学生たちがごみに関する課題を学んでいます。	情報科学研究科情報工学専攻 教授 井上 智生 教授 前田 香織 教授 永山 忍 准教授 小畑 博靖
市 09	都市整備局	あさみなみ芸術化構想	2010(平成22)年度より本学と安佐南区の住民、行政が協力して、地域の芸術化推進と若い芸術家の育成を目指して行っている活動です。 **西風新都中央線沿道作品設置事業** 地域住民(大塚上町内会、大塚・伴南学区社会福祉協議会)及び広島市と連携し、大塚シンボル通り(西風新都中央線)沿道に彫刻作品を展示しています。 —安佐南区役所作品展示— 本学芸術学部学生と卒業生の絵画・工芸作品を、安佐南区役所1階ロビー等に展示しています。展示作品は、毎年入れ替えを行っています。	芸術学部美術学科 教授 前川 義春 (現 名誉教授) 准教授 荒木 亨子
市 10	道路交通局	猿猴橋復元のためのモデリングデータの作成及びデザイン監修	広島駅の南側、猿猴川に架かる猿猴橋は1926(大正15)年に華麗な姿に架け替えられました。その後、戦時下に装飾の金属を供出、被爆に耐えたこの橋は、2015(平成27)年広島市被爆70周年記念事業の一つとして、往時の華麗な姿に復元されました。 この復元事業で、広島市からの受託研究として、鋳造および石の加工に関わるモデリングデータの作成とデザイン監修を行いました。	芸術学部 デザイン工芸学科 教授 吉田 幸弘
市 11	下水道局	デザインマンホールふたのデザイン制作	良好な都市景観の形成や下水道のイメージアップを目的として、「デザインマンホールふた」のデザイン制作を行いました。市内の主要な交通結節点や広島城、マツダスタジアムの周辺地区など、幹線道路や補助幹線道路等を対象とした6地区に、それぞれのテーマをもったデザインマンホールふたが設置されています	芸術学部 デザイン工芸学科 教授 及川 久男 (現 名誉教授) 准教授 中村 圭 非常勤助教 鹿田 義彦 (当時)
市 12	中区役所	基町プロジェクト	「基町プロジェクト」は、2013(平成25)年に策定された「広島市基町住宅地区活性化計画」に掲げられている「基町アートロード、アートによる魅力づくり」の実現を目指し、若者が主体となった創造的な文化芸術活動や地域交流を行ない、今年6年目を迎えました。展示ではその取組についてご紹介します。	芸術学部 デザイン工芸学科 教授 伊東 敏光 教授 吉田 幸弘 准教授 中村 圭 非常勤特任教員 増田 純 非常勤特任教員 浮田 茉侖 社会連携センター 特任助教 三上 賢治 非常勤特任教員 片島 蘭
市 13	安佐南区役所	安佐南区民交流駅伝大会への協力 - RFIDのタグを用いたタイム計測の自動化 -	第21回安佐南区民交流駅伝大会(2020年開催)に、情報科学研究科の学生も参加し、「RFIDのタグを用いたタイム計測の自動化」の試行を行い、大会運営に協力しました。	情報科学研究科知能工学専攻 画像メディア工学・CG研究室 講師 馬場 雅志

No.	関連部局	事業名	概要	研究者 (事業実施当時在籍者を含む)
市 14	議会事務局	広島市議会定例会開 会案内ポスターのデ ザイン	若い学生たちが市議会の活動を学び、また、同世 代の若者が市政や市議会に興味や関心を持ち、選 挙や政治に参画する機会となることを目的とし て、本学の学生が広島市議会定例会開会案内ポ スターのデザインを作成しました。 作成したデザインは、2019(令和元)年 12 月議 会からの 4 定例会分のポスターに採用されました。	芸術学部デザイン工芸学科 教授 及川 久男 (現 名誉教授) 准教授 中村 圭 非常勤助教 鹿田 義彦 (当時)
市 15	全市関係局	シンボルマーク及び 公共デザイン制作	芸術学部では各種イベント等のロゴやマスコット キャラクターのデザインの制作や公共デザインへ の協力を行っています。	芸術学部
市 16		広島市等の審議会委 員等の就任状況	2021 (令和 3) 年度の本学教員の審議会委員等へ の就任状況を紹介しします。(2021 (令和 3) 年度に 任期が含まれたもの)	全学部
市 17	法務省広島矯 正管区	矯正職員のキャラク ターデザインの開発 研究	刑務所等の矯正施設で勤務する矯正職員の社会に おける認知度向上を図るためキャラクターを制作 しました。	芸術学部デザイン工芸学科 教授 納島 正弘

国際学部・研究科
 情報科学部・研究科
 芸術学部・研究科
 広島平和研究所
 社会連携センター他

②地域・市民対象事業紹介

No.	テーマ・事業名	概要	研究者 (事業実施当時在籍者を含む)
地域 01	8.6 ピースナイターで の灯ろう流しボランテ ィア	平和記念日の 8 月 6 日にマツダスタジアムでカーブ及び対 戦チームの選手や監督から平和に対するメッセージをいた だき、それを元安川で灯ろうに流す作業を、本学国際学部生 がボランティアとして委嘱されています。試合のない年には スタジアムでキャンドルを灯す「ピースライン」ボランテ ィアを行っています。	国際学部 就職・キャリア形 成支援委員会 教授 吉田 晴彦 准教授 井手吉 成佳
地域 02	HACH - Hiroshima Arts & City Hive (広島芸術都 市ハイヴ)	都市への介入の方法を開拓する組織 HACH を組織し、広島 市内のさまざまな場所にアーティストたちが関わるための メディエーター(繋ぎ手)の養成するための取り組みや講座・ ワークショップを行います。横川商店街劇場への参加者への サポートや駅前への一時的な彫刻設置による企画・運営力の 向上、Hiroshima Art Scene や地域のギャラリーとの協力に よる調査能力や情報発信力の向上、内外のアートに関わる 方々との学習会や基町プロジェクトとの連携による都市模 型制作や設営技術のワークショップを通じた協業体制構築 能力の向上を目標とします。	国際学部 准教授 石谷 治寛 芸術学部デザイン工芸学科 准教授 中村 圭
地域 03	土砂災害モニタリングネ ットワークの研究開発	本研究室では、Web による災害危険地域の画像情報の提供や テレビに避難情報の提示を実現する土砂災害モニタリング ネットワークの研究開発を行っています。広島市の複数の地 区にて赤外線カメラの画像をリアルタイムに取得しており、 市民の皆様が 24 時間いつでも確認できるネットワークを構 築しています。	情報科学研究科情報工学専攻 モニタリングネットワーク研 究室 教授 西 正博 講師 新 浩一 助教 小林 真

No.	テーマ・事業名	概要	研究者 (事業実施当時在籍者を含む)
地域 04	情報オリンピック「レギオ」講習会	情報オリンピック日本委員会では、情報オリンピック国際大会を目指す中高校生の育成のため、本学を含む全国の大学で地域密着型の学習支援講習会「レギオ」を開催しています。今年は本学の「高校生による情報科学自由研究」の一テーマ「情報オリンピック問題に挑戦しよう!」として広島県、広島市近隣の高校生を対象に開催しました。	情報科学研究科 情報オリンピック「レギオ」講習会実施グループ 教授 井上 智生 准教授 舟阪 淳一 助教 窪田 昌史
地域 05	広島市立大学 科学教室	広島市立大学の教員と学生の有志による(教員 2 名、学生 10 名)、主に小学生を対象としたボランティアの科学教室「広島市立大学 科学教室」を小学校や公民館を訪問して開催しています。科学原理をテーマとして身近にある材料を使った工作や実験をとおして理科好きの子供を増やし、広島県の児童生徒の文化活動の振興ならびに将来の科学技術の振興に資することを目的としています。科学原理については中学校から大学レベルの内容についても学習しますので、公民館等で開催の場合は中高生の参加も可能です。	情報科学研究科 医用情報科学専攻 准教授 釘宮 章光 情報科学研究科 知能工学専攻 准教授 梶山 朋子
地域 06	地域産業の実践的 IoT 人材育成プログラム	2022 年度より、広島市立大学情報科学部では、社会人を対象とした、人工知能やロボット技術などの新しい技術を身に付ける実践的な教育プログラムとして、機材を用いた実習やプログラミング入門演習等の公開講座を開始しました。	情報科学研究科 社会連携委員会 教授 高野 知佐 教授 樋脇 治 准教授 梶山 朋子 准教授 脇田 航
地域 07	コロナ禍でも健康体操で交流したい。	比治山学区社会福祉協議会では、地域の集会所などで高齢者の介護予防・健康づくりと交流をしていましたが、緊急事態宣言や集中対策期間には交流もままなりません。この経験から「集合しなくてもゲーム感覚で ICT を使って交流できる健康づくり活動をしたい」、また「スマートフォンを活用できる高齢者を増やしたい」という課題に取り組んでいます。地域の力だけでオンライン体操環境を準備運営できるようになることを目指しています。	情報科学研究科 知能工学科 准教授 岩根 典之 国際学部国際学科 教授 山口 光明
地域 08	横川・三篠地区元気なまちづくりプロジェクト事業の協力	横川エリアマネジメント連絡協議会が 2020 (令和 2) 年度に実施した横川・三篠地区における交流促進及び賑わい創出を目的とした事業に、本学芸術学部も協力して実施しました。 JR 横川駅南北自由通路壁面デザイン改修事業として「金雲のみち」のデザインをしました。	芸術学部 デザイン工芸学科 教授 吉田 幸弘 芸術学部 デザイン工芸学科 講師 藤江 竜太郎
地域 09	2018 年受託研究「浅野長晟肖像画模写」について	浅野家広島入城 400 年記念事業として饒津神社に奉納する「浅野長晟肖像画模写」を制作しました。原本は、原爆で消失した「浅野長晟肖像画」を再現する目的で 2010(平成 22)年に本学日本画研究室が制作した作品です。古典作品における素材、技法に関する研究を中心に行いました。	芸術学部 美術学科 日本画専攻 准教授 荒木 亨子
地域 10	マツダと広島市立大学芸術学部による共創ゼミ開設	芸術学部とマツダ(株)が協働して、新たなモノづくりと新たな時代を形成し得る人材を育成し、広島が世界に誇れるモノづくりを輩出する地となることを目指し、2017(平成 29)年度から共創ゼミを開講しています。共創ゼミでは、マツダ(株)の精神や技術と本学芸術学部デザイン工芸分野の知見とを融合させ、モノづくりの精神を真摯に考え、広島発の新たな価値(モノ)を社会に提供する創造力と知識、技術を修得した人材を育成することを目指します。	芸術学部 デザイン工学科 教授 吉田 幸弘 マツダ株式会社デザイン本部 高橋 耕介クリエイティブ デザインエキスパート
地域 11	芸備線魅力発信・フォトジェニックオブジェ制作	広島駅と庄原駅・新見駅を結ぶ芸備線沿線の活性化を目的とした取り組みとして、志和口駅地域の方を中心に 100 名の協力を得て幟を作成し、3ヶ月に渡り芸備線を活用する乗客を歓迎し続けた。	芸術学部デザイン工芸学科 講師 藤江 竜太郎

No.	テーマ・事業名	概要	研究者 (事業実施当時在籍者を含む)
地域 12	あさひチョコレート工房の壁画制作	社会福祉法人 平成会 多機能事業所あさひが、竹原市より旧田万里小学校の一部を借用してチョコレート工房を 2021 年 9 月に営業を開始し、2022 年 10 月にオープンカフェを開設した。 この施設の利用者の方が描いた絵をデザイン化して施設内の廊下等に壁画を制作した。	芸術学部 デザイン工学科 教授 吉田 幸弘
地域 13	2022 ひろしま盆ダンスモニュメント作成	2022 年 8 月 13 日、14 日に行われた中国新聞社主催ひろしま盆ダンスの会場で読者から集めた折り鶴を利用し、来場者のアイキャッチとなるモニュメントをデザインし、作成した。	芸術学部 デザイン工学科 教授 吉田 幸弘
地域 14	市大生チャレンジ事業	大学が活動費の一部を助成し、学生が自ら選定した課題や地域などから提案のあったテーマに基づき、社会貢献活動を行っています。2021 (令和 3) 年度の採択プロジェクトを紹介しします。	全学部・全研究科
地域 15	社会連携プロジェクト	広島市及び広島広域都市圏や市民団体等と連携した事業などに取り組み、教育や研究の成果を地域社会に還元することを目指しています。2021 (令和 3) 年度の採択プロジェクトを紹介しします。	全学部・全研究科
地域 16	いちだい地域共創プロジェクト	いちだい地域共創プロジェクトは、2022 年度から始まった事業です。本学の教職員や学生が地域の関係者等と協働して、地域社会が直面する課題の解決に取り組むことで、広島広域都市圏及びその周辺地域の地域活性化と持続的発展に貢献することを目的としています。	全学部・全研究科
地域 17	市民を対象とした公開講座	本学は、教育・研究の場としてだけでなく、身近な生涯学習機関として、各学部の特徴を生かし、幅広い層を対象とした公開講座を実施しています。	全学部・全研究科

■ 国際学部・研究科
 ■ 情報科学部・研究科
 ■ 芸術学部・研究科
 ■ 広島平和研究所
 ■ 社会連携センター他

③ 地域等と連携した教育研究

No.	テーマ	概要	研究者 (事業実施当時在籍者を含む)
教育研究 01	ヒューマノイドロボットの教育とリハビリへの活用	広島市立リハビリテーション病院と共同でヒューマノイドロボットを論理的思考力育成及び失語症者のリハビリテーションに活用する方法について研究をしています。特に動作の分析・組立課題を通じた論理的思考力の育成方法や Nao とのコミュニケーションを通じた言語聴覚訓練方法を開発しています。	情報科学研究科 システム工学専攻 教授 岩城 敏 助教 川本 佳代
教育研究 02	失語症者のための言語聴覚訓練支援システムの開発	広島市立リハビリテーション病院と共同で失語症者の職場復帰を支援する言語聴覚訓練支援システムを開発しています。病院以外でも長期間にわたり機能回復訓練が行えるようタブレット端末アプリとして実装されているシステムについて紹介しします。	情報科学研究科 知能工学専攻 准教授 内田 智之
教育研究 03	産学連携教育：地域の IT 人材育成をめざして	情報科学部及び情報科学研究科では、地域社会との積極的な連携による教育プログラムを設計しました。地域の産官学で地域の将来ビジョンを共有し、産学連携で教育・人材育成に取り組めます。	情報科学研究科 産学連携教育 教授 前田 香織 教授 永山 忍 教授 田村 慶一

④その他

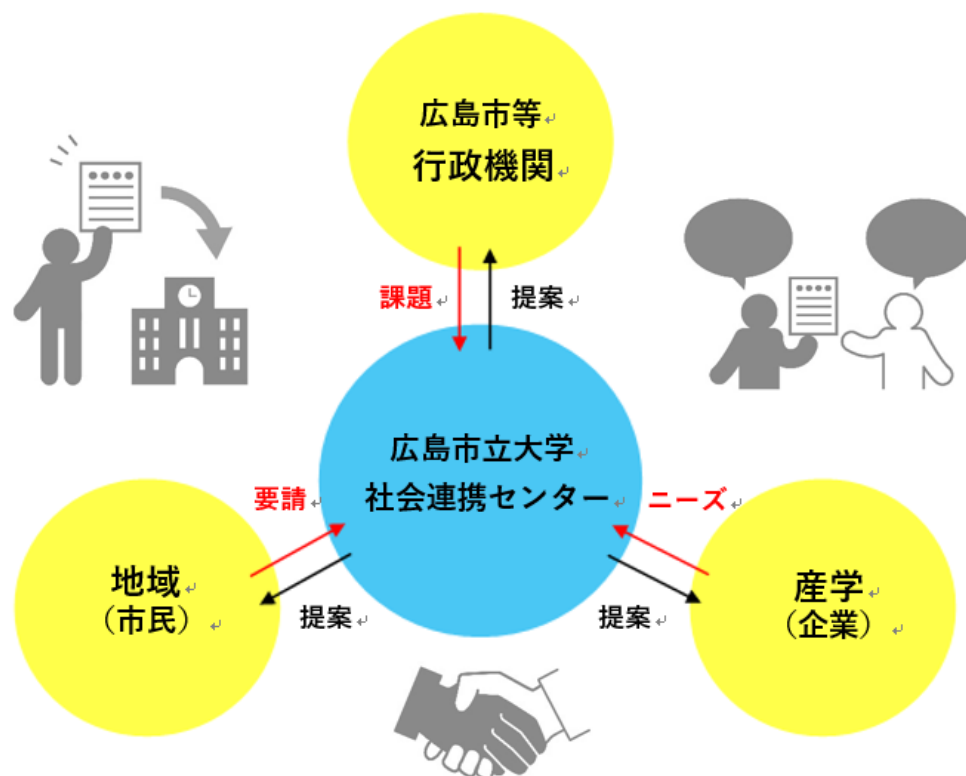
No.	テーマ	概要
1	教育カリキュラム「地域志向特定プログラム」	地域社会の発展には若い世代の力が不可欠です。公立大学である本学にとって、地域に定着し貢献する学生を育成することは重要な使命となっています。「地域志向特定プログラム」は、1、2年次の共通教育として、地域課題演習などを履修し、2、3年次の専門教育では学部ごとに地域に関連した科目が組み込まれています。
2	地域展開型の芸術プロジェクト	芸術学部の学生と教員が地域に出向き、アートやデザインによって、地域の魅力や資源にスポットを当てる表現活動を行っています。
3	広島市立大学塾	広く社会を見つめ、知識を習得し、感性、教養を培い、また体験することを通じて、自ら考え判断し、行動する力を養うことで、社会における自らの役割を認識した新しい時代を担うリーダーを育成するための正課外教育プログラムです。
4	産学連携推進協力会	広島市立大学と地域産業界や行政機関等が協力して、地域に貢献できる人材を育成するため、また、技術交流や情報交換を活発に行うことで地域産業の活性化、高度化、地域社会の持続的な発展を目指すために、広島市立大学産学官連携推進協力会を設立いたしました。
5	国際学生寮「さくら」の紹介	大学の国際化およびグローバル人材育成施策の一環として、日本人学生と外国人留学生が共同生活を行う国際学生寮「さくら」を2018（平成30）年4月に開寮しました。共同生活そのものを教育の場とするとともに、多目的室や共有キッチンなどを活用し、学生役職者（リーダー）を中心として、多様な教育プログラムや交流プログラムを実施しています。
6	平和学研究科	平和学研究科の博士前期・後期課程と公開講座について紹介します。
7	社会連携センターの紹介	広島市立大学では、教育や研究だけでなく社会貢献にも積極的に取り組んでいます。その対象は、地域住民、地元企業、広島市をはじめとする行政機関などさまざまです。「社会連携センター」は、大学と社会、人と人をつなぎ、国際、情報科学、芸術、平和のそれぞれの分野で活躍する教員の研究成果を社会に還元する取り組みや、学生の社会貢献活動の支援を行っています。
	著書の紹介	本学教職員の研究成果物のうち、図書、学部叢書、学部紀要を展示し、教員の研究成果を紹介します。

広島市立大学社会連携センターについて

■こんなときは、社会連携センターへ

大学には教育、研究成果等の資源を活用して、市民・地域社会・企業等と連携し、地域・社会貢献を行うことが求められています。広島市立大学は、地域と共生し、市民の誇りとなる大学を目指しています。

社会連携センターは、地域の皆様、産業界の皆様と大学をつなぐ窓口です。連携事業等のお問い合わせがございましたら、本学教員とのマッチングを行いますので、お気軽にご相談ください



■社会連携センター所管業務

区 分	事業内容
産学連携の推進	産学連携推進施策の企画運営・学内調整、関係機関との連絡調整
地域連携の推進	地域連携推進施策の企画運営・学内調整、関係機関との連絡調整
知的財産管理	知的財産権の権利化及び管理(特許出願等)、知的財産権保護
外部資金獲得	奨学寄附金・補助金の受入及び予算執行、共同研究・受託研究の推進及び予算執行
公開講座	一般向け公開講座、高校生を対象とした芸術学部サマースクールや情報科学自由研究、社会人を対象とした講座等の企画・実施

公立大学法人 広島市立大学社会連携センター



〒731-3194 広島市安佐南区大塚東三丁目4番1号

電話：082-830-1764 FAX：082-830-1555

Email：office-shakai@m.hiroshima-cu.ac.jp